

【GFオルトラン®カプセル】2020年10月5日作成

の部分が2020年9月30日付で変更になりました。

説明をよく読む。記載事項以外には使用しない。小児の手の届く所には置かない。

[適用害虫と使用方法]

※印は本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	使用方法	総使用回数※	
					本剤	アセフェート
樹木類(プラタナス、くろまつ、あかまつを除く)	ケムシ類、アブラムシ類	幹周囲 10cm毎 に1個	発生期直前	樹幹 打ち込み	2回以内	5回以内
プラタナス	ケムシ類、プラタナスグンバイ					
くろまつ、あかまつ	マツカレハ、ケムシ類					

[効果・薬害等の注意]

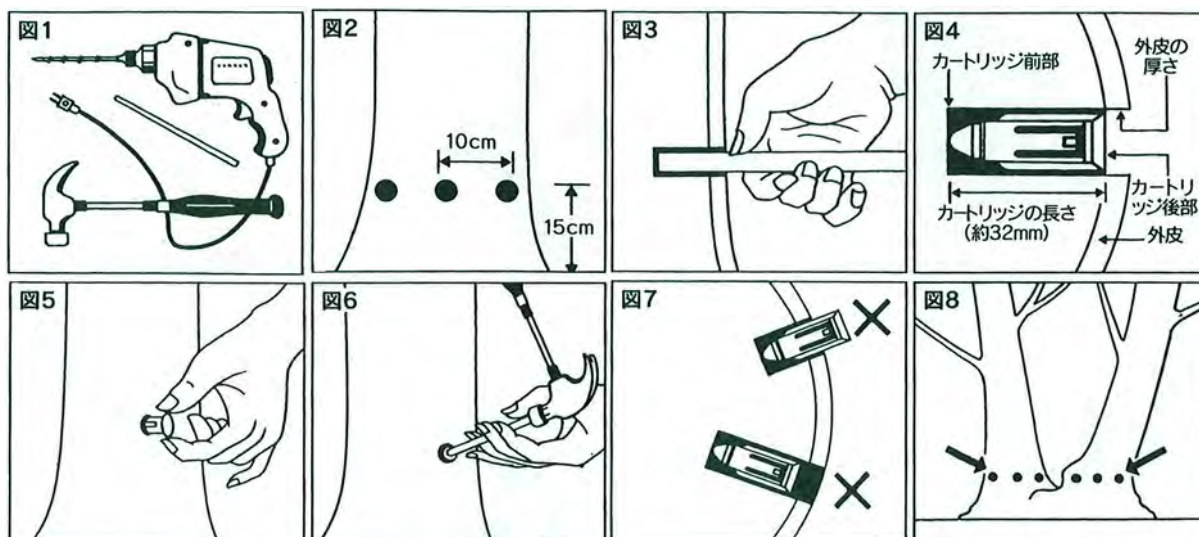
- ・本剤は害虫の種類によっては発生前に処理しないと効果が劣るので、例年の発生状況を考慮し、発生前に処理を行う。
- ・地上15cmの幹周囲に10cm間隔で穴を空ける。ただし、空けられない場合は上下にずらしても問題ない。
- ・処理樹に打ち込み後のカートリッジの後部面が、外皮のすぐ内側に位置するように穴を空ける。
- ・薬剤を打ち込むために空けた穴からヤニが流出することがあるので注意する。
- ・高温・乾燥時には薬害を生じる場合があるので使用をさける。
- ・薬剤を包んでいるカプセルは水溶性なので、降雨時の作業はさける。
- ・樹勢の弱った木、悪条件下に植栽された木、極端な老木への使用はさける。
- ・地上15cmの幹周が10cm未満の小径木や、移植後間もない木への使用はさける。
- ・適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

[安全使用上の注意]

- ・街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- ・必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきる。
- ・火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。

治療法：硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効。(動物実験で報告)

保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に、袋を密封して保管。



### 【GFオウルランカプセルの上手な使い方】

(効果・薬害等の注意、安全使用上の注意等と合わせて必ずお読みください)

- ・本品は薬剤を充てんした水溶性のカプセルをスリット入りのポリエチレンカートリッジに収納しています。そのままお使いください。
- ・体調のすぐれない時は作業をしないでください。
- ・本剤は害虫の発生（ふ化）前に処理しないと効果がありません。例年の発生状況を考慮して必ず発生前に処理を行ってください。
- ・通常の作業に必要な道具は、電動ドリル、ハンマー、そしてカートリッジを打ち込む際に用いるポンチ（直径約9mm）です。（図1）
- ・地上15cmの幹周囲に10cm間隔で穴をあけます。打てない場合は上下にずらしても問題はありません（図2）
- ・直径10.5mmの穴をあけると差し込みが簡単です。
- ・穴の深さは先端が平らな鉛筆等を用いて計れます。（図3）
- ・処理樹にあける最適な穴の長さは「カートリッジの長さ+外皮の厚さ」です。つまり打ち込み後のカートリッジの後部面が、外皮のすぐ内側に位置するように穴をあけます。（図4）
- ・穴が深くなりすぎるとやり直しが出来ないので、ドリルの刃に印を付けるなどして、穴の深さを調節してください。
- ・穴あけ後はすみやかにカートリッジを差し込み、ポンチとハンマーで打ち込みます。（図5、図6）
- ・必要以上に深くあるいは浅く打ち込まないように気を付けます。（図7）
- ・主幹がなく地際から分枝した木には、各々の分枝した枝元に施用します。（図8）
- ・打ち込んだ穴にヤニ等の心配がある場合は、打ち込み直後に癒合剤等の塗布をおすすめします。
- ・毎年同じ場所には打たないでください。
- ・打ち込んだ穴は外皮の厚さ、植栽地域での生長速度にもよりますが半年～1年で癒合が進行し、2年程度でふさがります。

### 警告

- ・カートリッジを分解しないでください。
- ・火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。